# 知床ウトロ海域のケイマフリの保全と普及啓発活動

知床ウトロ海域環境保全協議会
事務局　福田佳弘

今回の活動は、知床ウトロ海域で生息する絶滅危惧種の海鳥「ケイマフリ」の保全とその保護の普及啓発活動の 2 本立ての目的となりました。

知床が世界遺産指定される前後から観光船が増便され、観光船の航行ルートがケイマフリの生息海域や繁殖地と重なっていました。その影響が懸念されたていました。このため観光船業者と話し合った結果、ケイマフリも知床世界遺産の共通の資源であるという共通認識が生まれ、知床ウトロ海域環境保全協議会が設立しました。

今回の事業を実施する準備として、平成 29 年に断崖にある洞窟に設置した繁殖生態観察用の巣箱の点検を 5 月 16 日に行ったところ、冬の大時化が原因で巣箱の全て流されてしまいました。そのため当初の事業計画を変更し新たに巣箱を作成することとし、繁殖期が終わった後に設置する予定としましたが、船で現地に行くものの高波により断崖に上陸できない日が続きました。このため時期を変え再度、流氷期に流氷の上を徒歩で現地まで行くことも試みましたが、今期の流氷は薄く危険を伴うため断念しました。

最終的には、助成期間が終了した時期でありましたが本年 4 月 23 日に、平成 29 年に設置した洞窟内に再度 3 個の巣箱とともにケイマフリを誘引するためのデコイも設置しました。巣箱には巣箱内に抱卵期・育雛期などの繁殖行程を判断するデーターロガー、巣箱周辺の出入りを観察するセンサーカメラを設置しました。

申請時に予定していた、観光船の航行などによりケイマフリが営巣を放棄してしまった場所にデコイを設置して誘引することによる繁殖地への再誘導は、現地調査を行ったところ平成 30 年になりすでにケイマフリが自然に繁殖に戻ってきていたためおりデコイの設置は不要と判断しました。これはこれまでの協議会の活動において観光船業者にケイマフリへの影響回避について協力関係を築いてきた成果であり、結果的に目的は達成されました。

普及活動としては、「知床うみどりＷＥＥＫ」中にサンセットクルーズでのケイマフリおよび海鳥の観察会を 2 回行った。1 回目は地元の子供会を中心に募集を行い 30 名の参加、２回目は一般に広く参加を募り 40 名の参加者があった。また、各大型ホテル 4 ヶ所にて 4 回の海鳥トーク（海鳥解説）を行い約 120 名の参加がありました。大型観光船「おーろら」においても 4 回の海鳥観察会を行い約 160 名の参加がありました。

巣箱取付

子供サンセットクルーズ

海鳥トーク